

企画展

2026.4/1(水) - 6/28(日)

## 松にきく 澤田祐一展

20代の頃、澤田祐一が三保の松原に身を置いたとき、琴線にふれるものがあり、“松にふれて”のシリーズがライフワークになりました。選んだ表現はコラグラフによる版画で、油絵用のキャンバス地に金属の粉や紐などを貼り付けたり、パレットナイフや絵筆で描いた後にプレス機で紙に刷っていきます。40年以上も続ける松との対話から生まれた作品群を紹介します。



松にふれて 2008-1

松にふれて 1997-1

企画展

2026.7/4(土) - 9/6(日)

## こけし

こけしは東北地方で生まれた木製の人形です。木で作った小さな芥子人形が名前の由来で、木地職人がろくろで成形する椀や盆などを作る時に、端材で作ったのが始まりといわれます。本展示は東北の産地に分けてこけしを紹介します。

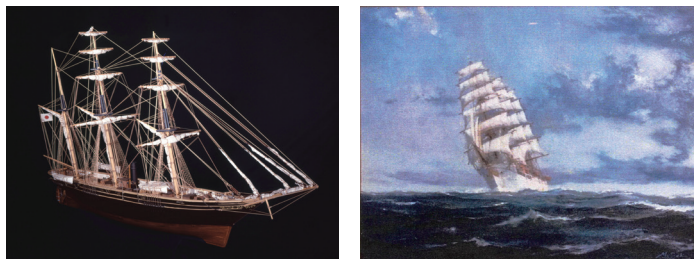


企画展

2026.9/12(土) - 11/15(日)

## 東西の帆船

ヨーロッパでは15世紀に大小3~4本マストの本造帆船が登場し、日本では、15世紀から水押し型の船首、格子状に組まれた垣立など独自の船体が発達し、江戸時代末期には西洋の帆船建造技術が日本に影響を与えて、本造から金属製の船体が出現しました。本展は帆装艦装された絵画と模型により、日本と西洋の帆船を紹介します。



咸臨丸 模型

開けゆく潮路 (初代日本丸) | 瀬古宗昭 画  
油彩画 鈴与株式会社所蔵

特別展

2026.11/21(土) - 2027.2/7(日)

## 銘仙展 冬

明治維新後に生糸は海外に盛んに輸出されましたが、国内ではアール・ヌーボーやアール・デコの影響を受けたデザインの銘仙が大正から昭和時代にかけて大流行しました。本展は銘仙の中でも秋~初春にかけての着物を選び開催します。



企画展

2027.3/27(土) - 6/13(日)

## セルロイドストーリー 坂崎幸之助コレクション

セルロイドは明治時代に原料として日本に輸入され、生活用具に加工されました。昭和初期には世界のセルロイド生産の4割を日本が占めるようになり、戦後の1952年にはセルロイドの輸出が日本の全輸出額の5割を超え、復興期を支えたといえます。大正・昭和期のモダンな品々を収集する坂崎幸之助さんのコレクションより、今回はセルロイド製品を当時の生活用具とともに紹介します。



### 1階ギャラリー

#### ① 4SEEDS

2026年4月1日(水) - 5月31日(日)



青木悠太郎 [彫刻]



杉山圭 [写真]



館林佳史  
[Dramatic Photo]



福田希美 [デジタル]

#### ② 薩川紗央 [水彩画]

2026年6月2日(火) - 7月31日(金)



#### ③ saCO [ミクストメディア]

2026年8月1日(出) - 9月30日(木)



#### ④ 大石彩乃 [型染、テキスタイルデザイン]

2026年10月1日(木) - 11月29日(日)



#### ⑤ 田村真優帆 [日本画]

2026年12月1日(火) - 2027年1月31日(日)



### 休館のお知らせ

施設工事のため、下記の期間休館いたします。

■休館期間：2027年2月8日から3月19日まで

\*工事期間の変更の可能性があります。詳細はウェブサイトでご確認ください。3月20日(土)から常設展示室のみ公開予定です。